



(2022年度 留学生の集いより)

国際交流の特色

アレス鉱山大学は南フランスのガール県アレス市に位置するフランス産業省に属する国立大学である。1843年に創設された当初は鉱山技師の専門大学であったが、現在は総合技術大学として、土木工学、材料工学、人工知能・コンピュータサイエンス、機械工学、リスク管理・防災工学、環境工学の6つのコースを修士課程に有する。特に、リスク管理・防災工学分野は、研究センターを設立している他、全て英語による講義となる海外留学生用の学位プログラムを2020年から新たに設置するなど、注力している分野となる。また、2020年のTHE（Times Higher Education）世界ランキング（SDGs への貢献部門）では、301-400位にランキングされている。

交流実績（令和3年度～令和5年度）

年度	R3	R4	R5
受入・派遣			
学生の受入	0	0	0
学生の派遣	0	2	1
研究者・職員の受入	0	0	0
研究者・職員の派遣	0	0	0
オンライン交流参加者（本学）	0	0	0
オンライン交流参加者（相手機関）	0	0	0



2020年初旬に訪問した際の先方紹介資料より（南仏での生活）

教員からの声

アレス鉱山大学は、創造工学部と規模（教員数、学生数）やコースの構成が似ており、本学同様に危機管理やリスクマネジメントの教育・研究にも力を入れています。2020年2月に先方を訪問したところ、先生方と意気投合し、交流がスタートしました。一般的な工学系教育を三年間受けたのちに、修士課程で各専門コースに分かれる仕組みが取られているので、専門的な勉強をしたい方は修士課程からの留学をお勧めします。特にリスク管理・防災工学や人工知能・コンピュータサイエンスは英語での講義が行われているのでフランス語が苦手な方も講義が受けられます。アピールポイントとしては、何といても南フランスの歴史的・文化的・気候的な雰囲気です。アルル、ニーム、マルセイユなどの周辺の町も散策しながら、向こうの学生や先生と活発に交流して下さい。

創造工学部教授 梶谷 義雄

学生からの声

アレスは南仏の小さな町ですが、気候は温暖でとても生活のしやすいところです。様々な国から集まった留学生同士の交流も活発に行われていて、困ったときには、お互いに助け合うことができるとても良い環境です。英語での講義についていくのは大変ですが、先生や他の留学生が親身にサポートしてくれています。少しでも留学したいという気持ちをお持ちでしたら、ぜひアレス鉱山大学の留学に挑戦してみてください。

R4年度留学 創発科学研究科博士前期課程修了生

三谷順平